

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭(ユニット1)		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、近所のスーパーにて購入した食材を使用し、キッチンにて実際に調理することで、馴染のある食材で馴染のある料理を召し上がっていただけており、好評を得ています。また、職員が調理することで、一人ひとりの好き嫌いや食事形態などに細やかに応じることができています。  
 入浴は、機械浴を完備しており、車いすや浴槽をまたぐことが難しくなった方でも、浴槽に浸かり、ゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様になっています。また、機械浴の浴室は、全面ヒバで作られており、一般の浴槽よりも大きい為、手や足を伸ばして入浴して頂けるつくりとなっています。  
 外出レクは、なかなか困難な状況ではあるため、近所の散歩やドライブのみとなってしまうのですが、その分、室内レクを充実させ、楽しんで頂ける様に配慮しながら、気分転換を図って頂いています。  
 グループホームは、入居者の方々にとって生活の場であると考え、共に暮らす職員一人一人が日常とは何かを考える事で、「ゆっくりとした時間が流れる毎日」と「イベントがあり、にぎやかな時間が流れる日」のメリハリのある生活を送っていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の住宅街にある2階建て2ユニットのグループホームである。徒歩5分ほどの幹線道路にはスーパーや商店があり、利便性が高い。JR永山駅も徒歩圏にある。事業所向かいには旭川大学のキャンパスと幼稚園がある。共用空間が広く、エレベーターや機械浴の設備も整っている。利用者はソファで寛いだり、テレビやタブレットの映像、ゲームなどを楽しんでいる。管理者を中心に運営面が整備され、各種の勉強会の実施、運営推進会議や委員会の開催、災害対策などが計画的に行われて記録も整っている。地域交流の面では、町内会長と親密な関係を作り、定期的に情報交換している。今後は地域行事への参加や交流の再開を予定している。ケアマネジメントの面では、介護計画の見直しにあたって担当職員がケア項目ごとの支援経過を作成し、利用者の変化を見逃さないようにしている。計画作成担当者はその内容を次の計画に反映している。災害対策の面では、計画的な避難訓練や救急救命訓練の実施、地震時の危険箇所の確認などが行われている。排泄や入浴支援では、利用者の状態に合わせた支援が提供されている。入浴では機械浴の設備を利用し、少ない負担で湯船での入浴を楽しむことができている。地域とのつながりが継続され、適切な支援のもと、快適に生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで話し合い決定した理念をもとに実践している。また、グループホームとはどのような施設で働きがあるのかを内部研修等で共有している。	職員が話し合っって作った独自のケア理念の中の「お互いを尊ぶことができる生活の継続」に、地域の方と互いに協力して生活するという意味を込めている。ケア理念を事務所に掲示しており、共用空間への掲示も検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現町内会長が向かいの方なのもあって、町内のことなどを普段の会話から聞くことが出来ている。また、運営推進会議にも委員として参加して頂き、情報交換が出来る関係は築けている。	以前は町内会のお祭りに事業所の利用者のスペースが用意され参加していた。再開されればまた参加する意向である。向かいの幼稚園とは感染症流行前ほどの交流はできていないが、園児に手を振ったり、お遊戯のDVDの提供を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの主導ではあるが、協力する形で、サポーター養成講座の開催やフォローアップ研修などの開催し、認知症に対しての普及啓発に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文章での開催になってしまっているが、送信や送付後、意見やコメントを頂くようにし、一方的なものにならないようにしている。また、ご家族全員に送付している。	現在は2か月ごとの書面開催で、地域包括支援センター、町内会長、家族などがメンバーとなり、事前に意見を募っている。今は報告事項が中心だが、実際に集まる会議に向け各回のテーマを設けて議題に盛り込んでいく方針としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者との連絡は、何かの申請等以外はあまりとらないが、包括支援センターとは、定期的に連絡し、協力関係を築けている。	地域包括支援センターと日頃から連絡を密に取っている。地区におけるケアマネジャー研修に協力したり、認知症サポーター養成講座に講師として協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針をもとに、委員会を開催し、年2回の研修を行うことで、身体拘束に対しての知識の共有を図っている。また、同研修煮て身体拘束がもたらす認知症への影響などにも言及することで、正しく身体拘束を行わない環境を整備している。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとの「適正化委員会」と、年2回の身体拘束に係る勉強会を行っている。勉強会で禁止事項について正しく学んでいる。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に入出りできる。利用者の出入りがあれば鈴が鳴ってわかるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターなどが開催している研修の動画を視聴するなどし、学ぶ機会を持ち、内部研修などで定期的に共有する機会を確保している。また、業務の適正化などを行い、業務量の調整を図り、少し余裕をもって対応できるようにしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会はないが、実際に利用している入居者の方がいらっしゃるため、後見人の方や保佐人の方と連絡をとる機会はある。その交流の中で、疑問や質問をお聞きし、今後必要になった際に手間取らないようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時などにある程度説明を行い、入居契約前から少し理解して頂けるよう配慮している。入居契約時には、改めて説明し、疑問点などを聞き取り、解消されるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の会議内容と議事録を全家族に送付し、面会時などに聞き取りを行っている。また、ご家族からの意見や要望があった際には、運営委推進会議などを通じて報告している。	家族の来訪時に職員が聞いた内容を連絡帳や口頭で共有している。面会が本格的に再開すれば、以前使っていた面会簿を活用する予定である。毎月、利用者ごとに写真を載せた「永山亭通信」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、中々個々人の意見を聞けない場面が多い為、業務の合間など、話せる機会を設け、聞き取りを行っている。聞き取った内容については、代表と共有し、業務の適正化などに活かしている。	月1回、全体会議とユニットごとの会議を開催している。事前に意見を収集し、効率的に話し合っている。職員は気軽に管理者や施設長と相談できる。月ごとの行事を職員が分担し、お便りの作成などを得意な職員を中心に担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	身体的状況や家族環境などを鑑みながら勤務表を作成している。又、やりがいについては、内部研修などを通して、学ぶ機会を持ち、知識や技術の共有を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、その時の状況や困りごとなどに則した内容とするようにしている。また、疑問や困難さが発生した場合などに、気兼ねなく聞ける体制を構築し、なるべく早く解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター協働の元、地域のグループホームやその他の施設等との研修に参加するなどし、交流を兼ねていたが、現在は行えていない状況にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の支援では、まず環境に慣れて頂く事が重要と考え、馴染みの関係の構築が図れるような働きかけを行っている。また、職員は迎える側である事を忘れずに、不安な気持ちに対して働きかけが出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から、不安に思っていることや要望などを聞き取り、施設として出来る事、出来ない事について共有を図る事で、入居を決めるに当たっての齟齬が生まれないようにしている。また、出来る事・出来ない事を明確にすることで、信頼関係の構築にも繋がっていると考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前項目同様、見学や契約時から聞き取りを行い、把握に努めている。また、普段からピンポイントの支援を行えるように共有を図っており、行動などを細分化する中で、躓きなどを発見し、支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員の間には、役割の違いはあれど、優劣やする側、される側などの差はない事をミーティングや申し送り時などに共有し、相互の関係の中で支援できるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、介護サービスを受けるうえで、どのサービスにおいても、見てもらう側と捉えてしまう事を念頭に置き、提供されるサービスに対して意見を言ってもらえるように働きかけ、環境の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の状況下においては、友人の面会等は、行って頂ける様に配慮していた。現在は、主治医との関係性を維持する程度の支援となっている。	知人等の来訪は無くなっているが、3名ほどの利用者が知人に年賀状を作成する際に職員が支援している。感染症流行前は永山神社や個別の墓参りに行くことができていた。流行収束後は馴染みの場所への外出の再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こりそうな場合や、トラブルに発展しそうなときには、仲介を行うようにしているが、入居者同士の距離感の中でコミュニケーションを図られている時などは、むやみに仲介せずに、見守り程度にて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された際に、直接ご本人についての支援を行ったことはないが、市役所等の申請や手続きについて、相談に応じ、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が困難な状況で入居された方については、ご家族からの聞き取りやご本人の表情などを観察しながら支援しているが、会話をし得る状況で入居した方については、ご本人と出来るだけ会話しながら、好みの把握などを行い、重度になった時にも、把握していた好みを活かした支援が行えるようにしている。	7割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も過去の経験、表情、仕草などから把握している。生活歴がわかる利用者はフェイスシートに記載し共有している。一方、利用者の趣味や嗜好はシートに記載されている情報が少ない。	センター方式B-3シートの項目を基本に、利用者の趣味や嗜好について記載するシートの整備を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに、ご家族からの聞き取りや、担当ケアマネジャー等に情報やエピソード等の提供をして頂ける様に依頼し、その方の人となり把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、共に生活をしながら少しずつ把握し、困難な状況や躓きなどが見られた場合には、解消が図れるように支援している。また、行事などで、見せてくださる、普段とは違う一面などからも把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過やセンター方式などの記入を全職員で行い、気づきのポイントを共有することにより、日々のケアの中で気づき生まれ、申し送り時等に自動的に意見が出ている。その意見を試みてみることで反映し、結果を共有している。	介護計画を6か月で見直ししている。見直し時は職員がケア項目ごとの支援経過を作成し、計画作成担当者が評価欄に記載して次の計画に反映している。個人日報に目標項目の支援実施状況と利用者の様子を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ケアプランを反映した記入内容となるように共有し、実践している。ケアプランの見直し時には、アセスメント時に介護記録、支援経過、センター方式などを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは、お互いに合意できる内容とし、ある程度の柔軟性の下、出来る事と出来ない事を明確にすることで、齟齬がなくなり、良好な関係性の構築が図れると考え、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターが発行している地域資源マップなどを活用しながら、情報収集に努めている。また、必要な状況があれば、相談できる関係性の構築に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が継続できる方については、出来るだけ今までの主治医に診て頂ける様に支援している。また、受診が困難な状況になっても、往診が受けられるように体制を敷いている。	6割の利用者が協力医による定期往診を受け、その他の利用者は元々のかかりつけ医を事業所の送迎で受診している。往診分は一覧表の往診記録を作成し、その他は個々に受診記録を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康観察や健康相談、受診への付き添いや往診医とのやり取りを行っている。また、夜間帯の緊急時などにも対応できる状況を構築し、入居者・職員が安心できる体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・退院時には相談員や看護師と連絡を密にとり、状況や情報の共有を図っている。また、退院時には受け入れられる状況をご家族と共有した状態で、病院に伝え、退院に対しての齟齬が起らないようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についてマニュアルなどを用いて説明するが、状況の変化毎に心情や環境が変わると考え、都度聞き取りを行いながら、丁寧かつ齟齬が無いように支援している。	利用開始時に「重度化・看取りに関する指針」を説明し、同意の署名捺印を得ている。事業所ができる範囲で看取りを行っており、経験のある職員が多い。看取りの勉強会や、看取り後の振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作り、責任の所在を明確にすることで、安心して対応できる体制の構築に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した避難訓練のほかに、自然災害を想定した訓練を行い、マニュアルを作成し実際に起こった場合に備えている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や住民の参加を得て実施している。救急救命訓練を3年ほど前に全員が受講している。地震時の危険箇所の確認、ケア場面別の対応も話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	立場や役割の違いはあれど、共に生活する存在として、関わりを持つことが大切であることを共有し、支援することで、確保している。	呼びかけは名前に「さん」づけとし、家族や本人の希望で呼び方を変更することもある。不適ケアや接遇研修を実施している。申し送りは事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択すること自体がストレスになってしまう方は、観察を行いながら行動などを促しているが、それ以外の方については、自己決定を促すような声かけを行い、観察することで、顕在的・潜在的な希望について把握できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に共に生活する中で、徐々にペースやリズムが把握できるようになる事を全職員で共有し、何を思って、何が伝えたくて、どうして欲しいのかを念頭に、支援を展開することで、寄り添った支援が行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色々伝えられる状況から関わりが持て、会話の中から好みが出て、重度化したときでもその好みで職員の手で継続できる状況が理想的ではあるが、一人一人の状況に応じ、ご家族やその方を知っている周りの方々から聞き取りを行い支援している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、自力摂取出来ることがおいしく食べられる要素の大切な部分を占めていると考え、共有し、出来るだけ自力摂取して頂ける様に支援している。	年1回ほど管理栄養士の指導を受け職員が献立を作成している。行事に合わせてジンギスカンパーティーをしたり、寿司などの出前を取っている。冬至に利用者と一緒にかぼちゃ団子を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表や採決結果などを用いて、把握し、一人ひとりのし好やペース等も合わせて把握したうえで、ストレスにならず、過不足がないようにバランスに配慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、口腔保清の他、乾燥などにも注意しながら、適宜用具や用品を検討し支援を行っている。また、嫌がられる方には、無理強いないで、訪問歯科医師等に助言を求めながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやテープ止めのおむつになったとしても、身体状況を勘案しながら、排泄状況やリズムを把握しトイレ誘導を行い、パットのみの使用や布の下着への変更等を検討し、支援している。	日々の記録に全員の排泄を記録し、必要に応じて排尿チェック表も記入している。立位が可能であれば二人介助でトイレでの排泄を支援している。本人の排泄状況を見ながら、自立や改善に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状況やリズムに合わせてながら、日中帯の活動量の見直し、乳製品をとって頂くなどの支援を行いながら、主治医とも相談し、適宜緩下剤などの調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の配置上、毎日好きな時間に入浴を対応することは困難だが、決まった入浴日や時間の中で、一人ひとりのペースに合わせた入浴が出来るように支援している。また、タイミングが合わなかった時には、日にちをずらすなどの対応をしている。	月・火・木・金で入浴を支援している。身体状況に応じて機械浴を取り入れ、ほとんどの利用者が湯船に浸かっている。入浴剤を入れたり、職員と会話しながら入浴を楽しんでいる。希望に応じて同性介助でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯などの時間は設けず、自室にて思いのまま生活して頂ける様に配慮している。また、巡回時にも、覗かれるのが嫌な方については、音を聞くなどし、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、処方簿を目に付くところに配置し、日ごろから目が通せるようにしている。また、薬の変更などがあつた際には、申し送りノートに記入し、申し送る事で、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は、誰が作り、与えるものではなく、自ら作る事が大切であるという事を周知し、自ら選択して頂けるような配慮の下提供している。また、外出の機会が中々ない状況ではあるが、室内にて楽しめるものなどを工夫し、楽しみの創出を図っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の状況下では対応できていないが、以前であれば、希望があった際などは、一緒に買い物に出かけるなど行っていた。	天気の良い日は、車いすの利用者も一緒に近隣を散歩したり、プランターの花に水やりをして外気に触れている。近くの旭川大学で桜を見学したり、当麻の道の駅までドライブに出かけている。感染症収束後は、旭山動物園などへの外出行事を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行っていたときは、支払いなどをして頂いていた。現在、一緒に買い物に出かけることはないが、買い物の希望などがあった際は、買って来たものとレシートを渡し、お金の支払いを受ける等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には対応している。又、年賀状を書くのを手伝って欲しいとの話があり対応し、返信があった年賀状をみて喜ばれることがあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快い・不快等の刺激の種類や設え等について、接遇の研修を通して共有を図り、環境の整備に努めている。また、行事の後には、写真を飾る、季節が感じられるような飾りつけを行うなど、生活の場と思えるように配慮している。	居間は大きな窓に面した明るい造りで、利用者がゆっくり寛げるようにソファの配置も工夫している。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾や写真が飾られている。将棋やおセロなどのゲームも自由に遊べるように準備している。利用者は、タブレットでインターネット動画などを見ながら楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を都度工夫するなどし、その時の入居者間の関係性に応じた環境が整えられるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、ご家族協力の下、なるべく自宅の再現や馴染の物を配置して頂くなどし、環境の整備を行っている。また、身体状況に応じ、過ごしやすい環境は変化する事を共有し、都度検討を行っている。	居室には洗面台とクローゼット、ベッドが備え付けられ、全室に温湿度計も設置している。使い慣れた鏡台やタンスなどを持ち込んでいる利用者もいる。本人の塗り絵や書初めなどの作品、職員からの色紙などが飾られ、落ち着いた室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援の過不足が無いように配慮し、行動の細分化を行いながら、ピンポイントの支援が行えるように研修などを通じて共有を図ったうえで、環境の整備や見直しを適宜行っている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901852		
法人名	株式会社 ケアジャパン		
事業所名	グループホーム 永山亭 (ユニット2)		
所在地	旭川市永山4条22丁目4-12		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901852-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、近所のスーパーにて購入した食材を使用し、キッチンにて実際に調理することで、馴染のある食材で馴染のある料理を召し上がっていただけており、好評を得ています。また、職員が調理することで、一人ひとりの好き嫌いや食事形態などに細やかに応じることができています。  
 入浴は、機械浴を完備しており、車いすや浴槽をまたぐことが難しくなった方でも、浴槽に浸かり、ゆっくりと入浴を楽しんで頂ける様になっています。また、機械浴の浴室は、全面ヒバで作られており、一般の浴槽よりも大きい為、手や足を伸ばして入浴して頂けるつくりとなっています。  
 外出レクは、なかなか困難な状況ではあるため、近所の散歩やドライブのみとなってしまうのですが、その分、室内レクを充実させ、楽しんで頂ける様に配慮しながら、気分転換を図って頂いています。  
 グループホームは、入居者の方々にとって生活の場であると考え、共に暮らす職員一人一人が日常とは何かを考える事で、「ゆっくりとした時間が流れる毎日」と「イベントがあり、にぎやかな時間が流れる日」のメリハリのある生活を送っていただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで話し合い決定した理念をもとに実践している。また、グループホームとはどのような施設で働きがあるのかを内部研修等で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現町内会長が向かいの方なのもあって、町内のことなどを普段の会話から聞くことが出来ている。また、運営推進会議にも委員として参加して頂き、情報交換が出来る関係は築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの主導ではあるが、協力する形で、サポーター養成講座の開催やフォローアップ研修などの開催し、認知症に対する普及啓発に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文章での開催になってしまっているが、送信や送付後、意見やコメントを頂くようにし、一方的なものにならないようにしている。また、ご家族全員に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者との連絡は、何かの申請等以外はあまりとらないが、包括支援センターとは、定期的に連絡し、協力関係を築けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針をもとに、委員会を開催し、年2回の研修を行うことで、身体拘束に対する知識の共有を図っている。また、同研修煮て身体拘束がもたらす認知症への影響などにも言及することで、正しく身体拘束を行わない環境を整備している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターなどが開催している研修の動画を視聴するなどし、学ぶ機会を持ち、内部研修などで定期的に共有する機会を確保している。また、業務の適正化などを行い、業務量の調整を図り、少し余裕をもって対応できるようにしている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会はないが、実際に利用している入居者の方がいらっしゃるため、後見人の方や保佐人の方と連絡をとる機会はある。その交流の中で、疑問や質問をお聞きし、今後必要になった際に手間取らないようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時などにある程度説明を行い、入居契約前から少し理解して頂けるよう配慮している。入居契約時には、改めて説明し、疑問点などを聞き取り、解消されるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の会議内容と議事録を全家族に送付し、面会時などに聞き取りを行っている。また、ご家族からの意見や要望があった際には、運営委推進会議などを通じて報告している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは、中々個々人の意見を聞けない場面が多い為、業務の合間など、話せる機会を設け、聞き取りを行っている。聞き取った内容については、代表と共有し、業務の適正化などに活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	身体的状況や家族環境などを鑑みながら勤務表を作成している。又、やりがいについては、内部研修などを通して、学ぶ機会を持ち、知識や技術の共有を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の充実を図り、その時の状況や困りごとなどに則した内容とするようにしている。また、疑問や困難が発生した場合などに、気兼ねなく聞ける体制を構築し、なるべく早く解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター協働の元、地域のグループホームやそのほかの施設等との研修に参加するなどし、交流を兼ねていたが、現在は行えていない状況にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、迎える側であることや入居してくる方は、心細さや不安がある事を共有し、理解したうえで支援が展開できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と施設は一方的な関係性ではない事を伝え、要望が話しやすい環境の構築に努めている。また、来所時や面会時などの何気ない会話からヒントを得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約前の見学の段階から聞き取りを行い、入居した際に望まれることや今気になっていることの共有を図り、入居前の段階である程度把握することで、初期対応の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割の違い以外には平等で対等であることを共有し、共に生活する者として関わりを持ち、支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は、介護サービスを受けるうえで、どのサービスにおいても、見てもらう側と捉えてしまう事を念頭に置き、提供されるサービスに対して意見を言ってもらえるように働きかけ、環境の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が自由に行えていた時には、ご家族以外の面会も時折あり、関係性の継続が図れていたように思えるが、現在は、主治医との関係性を継続する程度となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり違う距離感を持っており、その距離感を大切にすることを共有しながら、支援の過不足がないように、見守りを主体として支援を行っている。お互いの居室に訪室しあい、お話されている様子も見受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された際に、直接ご本人についての支援を行ったことはないが、市役所等の申請や手続きについて、相談に応じ、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表面的な思いや意向にのみ着目するのではなく、潜在的な思いに気づける様に機微を観察することが大切であると共有し、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに、ご家族からの聞き取りや、担当ケアマネジャー等に情報やエピソード等の提供をして頂ける様に依頼し、その方の人となり把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の過不足が無いように配慮しながらではあるが、行動の細分化を行い観察している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援経過やセンター方式などの記入を全職員で行い、気づきのポイントを共有することにより、日々のケアの中で気づきが生まれ、申し送り時等に自動的に意見が出ている。その意見を試みてもことで反映し、結果を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、ケアプランを反映した記入内容となるように共有し、実践している。ケアプランの見直し時には、アセスメント時に介護記録、支援経過、センター方式などを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは、お互いに合意できる内容とし、ある程度の柔軟性の下、出来る事と出来ない事を明確にすることで、齟齬がなくなり、良好な関係性の構築が図れると考え、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターが発行している地域資源マップなどを活用しながら、情報収集に努めている。また、必要な状況があれば、相談できる関係性の構築に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が継続できる方については、出来るだけ今までの主治医に診て頂ける様に支援している。また、受診が困難な状況になっても、往診が受けられるように体制を敷いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康観察や健康相談、受診への付き添いや往診医とのやり取りを行っている。また、夜間帯の緊急時などにも対応できる状況を構築し、入居者・職員が安心できる体制を敷いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時・退院時には相談員や看護師と連絡を密にとり、状況や情報の共有を図っている。また、退院時には受け入れられる状況をご家族と共有した状態で、病院に伝え、退院に対しての齟齬が起こらないようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についてマニュアルなどを用いて説明するが、状況の変化毎に心情や環境が変わると考え、都度聞き取りを行いながら、丁寧かつ齟齬が無いように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作り、責任の所在を明確にすることで、安心して対応できる体制の構築に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した避難訓練のほか、自然災害を想定した訓練を行い、マニュアルを作成し実際に起こった場合に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利とは、尊厳とは何かを研修などを通して共有し、実践に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの基本を選択して頂ける内容とし、表情などの機微を観察しながら働きかけの方法や内容を都度検討し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誰のための何なのかを行動の基本とし、職員の為の物とならないようにしている。一人ひとりのペースの把握や性格などを考慮しながら、その人らしさとは何かを常に考え、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色々伝えられる状況から関わりが持て、会話の中から好みや聞き、重度化したときにもその好みや職員の手で継続できる状況が理想的ではあるが、一人一人の状況に応じ、ご家族やその方を知っている周りの方々から聞き取りを行い支援している。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自力摂取できることは、おいしく食事を摂るために大切な事であると考え、共有し、出来るだけ自力摂取が続けて頂ける様に過不足に注意しながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表や採決結果などを用いて、把握し、一人ひとりのし好やペース等も合わせて把握したうえで、ストレスにならず、過不足がないようにバランスに配慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、口腔保清の他、乾燥などにも注意しながら、適宜用具や用品を検討し支援を行っている。また、嫌がられる方には、無理強いないで、訪問歯科医師等に助言を求めながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやテープ止めのおむつになったとしても、身体状況を勘案しながら、排泄状況やリズムを把握しトイレ誘導を行い、パットのみの使用や布の下着への変更等を検討し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状況やリズムに合わせてながら、日中帯の活動量の見直し、乳製品をとって頂くなどの支援を行いながら、主治医とも相談し、適宜緩下剤などの調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員の配置上、毎日好きな時間に入浴に対応することは困難だが、決まった入浴日や時間の中で、一人ひとりのペースに合わせた入浴が出来るように支援している。また、タイミングが合わなかった時には、日にちをずらすなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯などの時間は設けず、自室にて思いのまま生活して頂ける様に配慮している。また、巡回時にも、覗かれるのが嫌な方については、音を聞くなどし、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、処方簿を目に付くところに配置し、日ごろから目が通せるようにしている。また、薬の変更などがあつた際には、申し送りノートに記入し、申し送る事で、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の創出は誰かがするものではない事や、役割は誰かが与えるものではなく、自らが選ぶものとの認識を共有し、選択して頂けるような支援を行っている。		

グループホーム 永山亭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在の状況下では対応できていないが、以前であれば、希望があった際などは、一緒に買い物に出かけるなど行っていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行っていたときは、支払いなどをして頂いていた。現在、一緒に買い物に出かけることはないが、買い物の希望などがあつた際は、買って来たものとレシートを渡し、お金の支払いを受ける等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があつた際には対応している。又、年賀状を書くのを手伝って欲しいとの話があり対応し、返信があつた年賀状をみて喜ばれることがあつた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快い・不快等の刺激の種類や設え等について、接遇の研修を通して共有を図り、環境の整備に努めている。また、行事の後には、写真を飾る、季節が感じられるような飾りつけを行うなど、生活の場と考えるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を都度工夫するなどし、その時の入居者間の関係性に応じた環境が整えられるように工夫している。一緒に歌番組を見て楽しんでいる様子も見受けられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は、ご家族協力の下、なるべく自宅の再現や馴染の物を配置して頂くなどし、環境の整備を行っている。また、身体状況に応じ、過ごしやすい環境は変化する事を共有し、都度検討を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ピンポイントの支援や環境の整備を行うために、行動の細分化を図り、観察を行っている。また、潜在的な課題にも気づける様に支援している。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム 永山亭

作成日：令和 5年 3月 24日

市町村受理日：令和 5年 3月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	職員は、入居者の趣味・嗜好について、各々情報は持っているが、全体の共有とはなっておらず、各自が情報を持ったままとなっていた。	情報の集約がなされ、どの職員も同じように各入居者についての趣味・嗜好が把握できている状況になること。	センター方式のB-3シートを活用し、情報の収集や集約を行う。また、今まで通りセンター方式への記入を担当制とし、定期的に担当を変更することで、全体の周知を図る。	6カ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。